

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
盛岡医療福祉スポーツ専門学校		平成8年9月25日	龍澤 尚孝	〒 020-0025 (住所) 岩手県盛岡市大沢川原3-5-18 (電話) 019-624-8600				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人龍澤学園		昭和38年3月14日	龍澤 尚孝	〒 020-0025 (住所) 岩手県盛岡市大沢川原3丁目4-1 (電話) 019-622-6357				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ健康学科	平成29(2017)年度	-	令和 2(2020)年度			
学科の目的	競技スポーツ、生涯スポーツなどの他、健康保持のため運動に取り組む人々が増えている中で、スポーツトレーナーの役割も更に重要性を増している。また技術や器材、戦略の発展・進化によりスポーツ業界は急速な進歩を遂げている。そのような状況下で本学科は子供から高齢者、地域スポーツからプロスポーツ、スポーツマーケティングと各専門分野毎に履修を重ねることにより、幅広い視点と確かな知識・技能をもとに多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	JATI認定トレーニング指導者資格、NSCA-CPT、等の取得							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,900 単位時間	946 単位時間	360 単位時間	190 単位時間	0 単位時間	464 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)					
40人	24人	0人	0%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		11	人				
	■就職希望者数(D)		11	人				
	■就職者数(E)		11	人				
	■地元就職者数(F)		6	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		55	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	(令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) フィットネスクラブ(フロントスタッフ・インストラクター)、プロスポーツ球団(フロントスタッフ)、スポーツ用品販売店								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://morii.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数						1,900 単位時間	
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						100 単位時間	
	うち企業等と連携した演習の授業時数						100 単位時間	
	うち必修授業時数						100 単位時間	
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						0 単位時間	
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						100 単位時間	
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						単位時間	
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数						単位	
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						単位	
	うち企業等と連携した演習の授業時数						単位	
	うち必修授業時数						単位	
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						単位	
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						単位	
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						単位	
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)						0人	
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)						0人	
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)						0人	
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)						0人	
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)						2人	
	計						2人	
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						0人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ業界の現状や今後の動向、また、実務において新たに必要となる知識、技術、技能等について、関係施設や会社等が職業教育機関に対して求める要望等を伺い、その内容を十分に活かしつつ、実践的かつ専門的な職業教育を行うための教育課程の編成を行う。また、教育課程編成委員会の委員の所属先以外の施設等であっても、学生の施設実習等で連携している施設等からの要望等は教育課程の編成において活用している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成においては教育課程編成委員会からの意見・アドバイスを十分に活かしつつ、本校教員が主体となって実践的かつ専門的な職業教育を行うものである。また理事会の承認を得て次年度のカリキュラムを決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
山田 学	公益財団法人盛岡市スポーツ協会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
藤川 雄一郎	株式会社スポーツブレイン	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
佐々木 純子	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	令和3年4月～令和5年3月	—
湊 和美	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	令和3年4月～令和5年3月	—
伊藤 優汰	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	令和3年4月～令和5年3月	—
浜端 郁子	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	令和4年4月～令和6年3月	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月25日 14:00～15:00

第2回 令和5年3月1日 11:00～12:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1回目の教育課程編成委員会においてご指摘・アドバイスいただいた点について、授業内容・方法の改善・工夫すべきことを教務責任者ならびに学科教員で検討を進めている。2回目の教育課程編成委員会で、その内容について専門委員の方に再度ご意見をいただき、令和4年3月末までに、令和5年度の授業内容・方法の改善・工夫等に活用することを組織として決定する予定。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 実習の目的に沿った業務を行っている企業、施設、且つ適切に指導できる実習指導者がいる施設を選定している。なお、それら実習施設と組織的に連携することで、主に下記の諸点について理解させることを基本方針としている。

- ・基礎的な知識・技術に応用力・実践力を身に付ける
- ・接遇の心得・実践を学ぶ
- ・社会人としてのマナー・エチケットを身に付ける
- ・職場内での人間関係の大切さを学ぶ

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本校と実習契約を交わしている企業及び施設へ、教育目標や学科ビジョンに合わせた内容での実習・演習を依頼する。実習期間中は、担当教員が学生への実習状況の確認や指導を行うとともに、依頼先の実習指導者と実習内容の確認や情報交換も実施することで、企業目線を反映した人材育成の機会とする。評価は実習後、実習指導者から評価に提出していただき、担当教員が毎年成績評価・単位認定を4段階にて行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
プロスポーツスタッフ 実習Ⅰ・Ⅱ	地域をスポーツの力で発展させていく人材となるために、プロスポーツから地域振興や競技力の発展に必要なことを学ぶ。	株式会社いわてアスリートクラブ 株式会社岩手ビッグブルズ 他
インターン実習Ⅰ・Ⅱ	競技選手を対象としたトレーニング指導を中心に、トレーニング計画から大会帯同を通じたサポート活動を行う。	江南義塾高等学校剣道部 いわてグルージャ盛岡アカデミー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校・本学科の教員として必要な知識、技術、技能や授業および学生への指導力について計画的に教育し、向上させることを目的に、校内・校外において実施される研修等への参加機会を積極的に設けることを「盛岡医療福祉専門学校 研修等規程」により定め、組織的に取り組んでいく。

ここでいう研修等には、施設等から講師を招いて学内で行う研修や学外で企業等が主催して行われる研修等への参加だけでなく、自己啓発活動への援助も含む。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	GFI資格養成校研修会	連携企業等:	公益社団法人日本フィットネス協会
期間:	令和4年10月14日(金)	対象:	スポーツ健康学科教員1名
内容:	GFI資格養成校継続のための講習会に加え、コロナ禍におけるフィットネス産業のあり方について学ぶ研修。		
研修名:	日本トレーニング指導者協会 オンライン養成講習会	連携企業等:	日本トレーニング指導者協会
期間:	令和4年4月25日(月)	対象:	スポーツ健康学科教員1名
内容:	トレーニング指導者養成に必要とされる知識と昨年度までの養成校資格取得状況についての情報共有を行う。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	MCLグループ教員研修	連携企業等:	学校法人龍澤学館
期間:	令和4年9月29日(木)、令和5年1月6日(金)	対象:	MCLグループ 教員
内容:	MCLグループ全体で教授法や指導力等の現状や困り事を共有、また各校でのオープンキャンパス等の情報交換を行い、自己研鑽の機会とする。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本トレーニング指導者協会 オンライン養成講習会	連携企業等:	日本トレーニング指導者協会
期間:	令和5年4月予定	対象:	スポーツ健康学科教員1名
内容:	トレーニング指導者養成に必要とされる知識と昨年度までの養成校資格取得状況についての情報共有を行う。		
研修名:	GFI資格養成校研修会	連携企業等:	公益社団法人日本フィットネス協会
期間:	令和5年10月	対象:	スポーツ健康学科教員2名
内容:	GFI資格養成校継続のための講習会に加え、今後のフィットネス産業のあり方について学ぶ研修。		
研修名:	SPORTEC2023	連携企業等:	0
期間:	令和5年8月	対象:	スポーツ健康学科教員1名
内容:	国内外のスポーツ関係企業・団体が最新製品・技術・サービスを発表する、日本最大のスポーツ・健康産業に関する総合展示会。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	MCLグループ教員研修	連携企業等:	学校法人龍澤学館
期間:	未定	対象:	MCLグループ 教員
内容:	未定		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として関係施設等から参画いただいた委員を含む学校関係者評価委員会を設置して、実務に関する知見を活かして教育目標や教育環境等について評価を実施し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善に活かしていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1. 建学の精神・教育理念、教育目的・目標
(2) 学校運営	7. 管理運営(各校)、8. 管理運営(法人)
(3) 教育活動	2. 教育の内容
(4) 学修成果	4. 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5. 学生支援
(6) 教育環境	3. 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5. 学生支援
(8) 財務	8. 管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	8. 管理運営(法人)、9. 改革・改善
(10) 社会貢献・地域貢献	6. 社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会での指摘を基に、内部委員会を数回開催し、次年度事業計画、および教育カリキュラムの改変等を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高橋 典成	社会福祉法人 潤沢会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
中舘 勝寿	株式会社システムエイド	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
曾根 美砂	学校法人聖公会盛岡こひつじ学園 仁王幼稚園	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
山田 学	公益財団法人盛岡市スポーツ協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
鳩岡 貴士	はまゆり在宅介護支援センター	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <http://www.morii.ac.jp/> <http://www.mclnet.jp/>

公表時期: 毎年度9月頃

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者として関係施設等から参画いただいた委員を含む学校関係者評価委員会を設置して、実務に関する知見を活かして教育目標や教育環境等について評価を実施し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善に活かしていく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	募集要項「学校概要」
(2) 各学科等の教育	学校ホームページ「学科紹介」、学校案内「学科紹介」
(3) 教職員	学校案内 各学科紹介頁内の「教員紹介」
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学校案内 各科「実習協力施設」、各科「実習STEP」
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校ホームページ「学科紹介」、学校案内「学科紹介」
(6) 学生の生活支援	学校案内「Morii寮生活レポート」
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項および学校ホームページ「入学案内・学生支援」
(8) 学校の財務	グループホームページ「MCL専門学校グループとは 財務情報」
(9) 学校評価	学校ホームページ「自己点検・学校関係者評価」
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <http://www.morii.ac.jp/> <http://www.mclnet.jp/>

公表時期: 毎年度9月頃

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ健康学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ホームルームⅠ	連絡事項の伝達。知識、教養を深める話題提供。クラス行事、学校行事、ボランティア等の企画立案・実施等を行う	1・通年	30		○			○		○		
2	○			ホームルームⅡ	連絡事項の伝達。知識、教養を深める話題提供。クラス行事、学校行事、ボランティア等の企画立案・実施等を行う	2・通年	30		○			○		○		
3	○			PCⅠ	ワード・エクセル・パワーポイントの機能や基本操作を理解し、文書作成やデータ分析、プレゼン資料の作成スキルを養う	1・通年	60		○			○		○		
4	○			PCⅡ	ワード・エクセル・パワーポイントの機能や基本操作を理解し、文書作成やデータ分析、プレゼン資料の作成スキルを養う	2・通年	60		○			○		○		
5	○			就職研究Ⅰ	進路に向けた学習や、就職に関する学習を行う	1・後期	16		○			○		○		
6	○			PCⅠ	ワード・エクセル・パワーポイントの機能や基本操作を理解し、文書作成やデータ分析、プレゼン資料の作成スキルを養う	1・通年	60		○			○		○		
7	○			PCⅡ	ワード・エクセル・パワーポイントの機能や基本操作を理解し、文書作成やデータ分析、プレゼン資料の作成スキルを養う	2・通年	60		○			○		○		
8	○			ビジネス実務Ⅱ	接遇や電話対応、ビジネス文書作成を学び、社会人に必要とされる基礎能力を養う	2・通年	60		○			○			○	
9	○			英語講座Ⅰ	基本的な英文法や日常英会話について学ぶ	1・後期	30		○			○			○	
10	○			英語講座Ⅱ	基本的な英文法や日常英会話について学ぶ	2・前期	30		○			○			○	
11	○			資格検定対策講座Ⅰ	簿記や販売士の資格取得を目指す	1・通年	60		○			○			○	
12	○			英語講座Ⅰ	基本的な英文法や日常英会話について学ぶ	1・後期	30		○			○			○	
13	○			英語講座Ⅱ	基本的な英文法や日常英会話について学ぶ	2・前期	30		○			○			○	

14	○		資格検定対策講座Ⅰ	簿記や販売士の資格取得を目指す	1・通年	60	○				○								
15	○		資格検定対策講座Ⅱ	簿記や販売士の資格取得を目指す	2・通年	60	○				○			○					
16	○		生涯スポーツ演習Ⅰ	スポーツを通じて地域貢献を行う。また、その中でスポーツと人の良好な関わり方を学ぶ。	1・通年	60			○	△	○	○	○						
17	○		生涯スポーツ演習Ⅱ	スポーツを通じて地域貢献を行う。また、その中でスポーツと人の良好な関わり方を学ぶ。	2・通年	60			○	△	○	○	○						
18	○		スポーツ概論Ⅰ	解剖学や運動生理学、トレーニング科学の基礎知識を養い、JATIトレーニング指導者資格（JATI-ATI）の取得を目指す	1・通年	##			○				○					○	
19	○		スポーツ概論Ⅱ	NSCA認定パーソナルトレーナー（NSCA-CPT）およびフィットネスクラブマネジメント検定の受験対策を行う	2・通年	##			○				○					○	
20	○		専門科目演習Ⅰ	チームマネジメントやテーピング・ストレッチといった専門的な能力を身につけ、実習に向けた技術を養う	1・通年	##			△	○	△	○							○
21	○		専門科目演習Ⅱ	チームマネジメントやテーピング・ストレッチといった専門的な能力を身につけ、実習に向けた技術を養う	2・通年	##			△	○	△	○							○
22	○		スポーツ経営学Ⅰ	スポーツに関する企業の実態を学び、スポーツマーケティングについて理解する	1・後期	30			○					○					○
23	○		スポーツ経営学Ⅱ	スポーツに関する企業の実態を学び、スポーツマーケティングについて理解する	2・前期	30			○					○					○
24	○		スポーツ実技Ⅰ	各種スポーツ実技やダンスといったスポーツの現場やフィットネスクラブで必要となる能力を養う	1・通年	90						○	○						○
25	○		スポーツ実技Ⅱ	各種スポーツ実技やダンスといったスポーツの現場やフィットネスクラブで必要となる能力を養う	2・通年	90						○	○						○
26	○		ストレングス&コンディショニングⅠ	スポーツの現場で行われる体力測定やウエイトトレーニングの知識、技術を養う	1・通年	60						○	○						○
27	○		ストレングス&コンディショニングⅡ	スポーツの現場で行われる体力測定やウエイトトレーニングの知識、技術を養う	2・通年	60						○	○						○
28	○		レクリエーションⅠ	子どもや高齢者が簡単に行えるレクリエーションや、ニュースポーツを実践する	1・通年	30						○			○	○	○		○
29	○		レクリエーションⅡ	子どもや高齢者が簡単に行えるレクリエーションや、ニュースポーツを実践する	2・通年	30						○			○	○	○		○

30	○		卒業研究	卒業研究の作成・発表を行う	2・後期	30	○			○	○	○		
31	○		1年オリエンテーション	入学後の学校生活についてのオリエンテーションの実施	1・前期	14	○			○	○	○		
32	○		プロスポーツスタッフ実習Ⅰ	岩手ビッグブルズ・グルージャ盛岡の試合運営等に参加し、プロスポーツの現場・現状について学ぶ。	1・通年	50				○	○	○		
33	○		プロスポーツスタッフ実習Ⅱ	岩手ビッグブルズ・グルージャ盛岡の試合運営等に参加し、プロスポーツの現場・現状について学ぶ。	2・通年	50				○	○	○		
34	○		インターン実習Ⅰ	企業やスポーツチームでの練習補助やチーム業務を行う	1・通年	30				○	○			
35	○		インターン実習Ⅱ	企業やスポーツチームでの練習補助やチーム業務を行う	2・通年	30				○	○			
36	○		アウトドアセミナーⅠ	アウトドア活動についての理論を理解し、実践を行う。また、スキー・スノーボード実習を行う。	1・通年	30	△			○	○	○		
37		○	スポーツ指導者資格対策講座	スポーツ少年団の理念や構成について理解し、スポーツ指導者基礎資格の取得を目指す	2・通年	30	○			○			○	
38		○	スポーツビジネス実習	スポーツビジネスの現場で実際に商品を発注・販売する実習を行う。	2・通年	30	△			○	○	○		
39		○	アウトドアセミナーⅡ	キャンプインストラクターの取得を目指す。取得後はアウトドア活動の実践を行う。また、冬季長期休みにてスキー・スノーボード実習を行う。	2・通年	30	△			○	○	○		
40	○		日赤救急員養成講習会	1次救命処置や心肺蘇生法について学び、日本赤十字救急法救急員認定証の取得する。	1・前期	14	△			○	○		○	
41	○		SAQインストラクター認定講習会	SAQ（スピード・アジリティ・クイックネス）の基本技術を身につけ、SAQレベル1インストラクターを取得する	1・後期	30	△			○	○		○	
合計						38	科目	1900 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	全体出席率9割以上、すべての科目において成績評価「C」以上であること	1学年の学期区分	2期
履修方法：	必修科目・選択科目を時間割に沿って履修すること。	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。